

(やまだ塾:2009 年 1 月 7 日掲載)

青春

サムエル・ウルマン

青春とは人生のある期間ではなく、
心の持ち方を言う。
薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、
たくましい意志、ゆたかな想像力、炎える情熱をさす。
青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは臆病さを退ける勇氣、
安きにつく気持ちを振り捨てる冒険心を意味する。
ときには、20 歳の青年よりも 60 歳の人に青春がある。
年を重ねただけで人は老いない。
理想を失うとき初めて老いる。
歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしぼむ。
苦悩・恐怖・失望により気力は地に這い精神は芥にある。

60 歳であろうと 16 歳であろうと人の胸には、
驚異に惹かれる心、おさな児のような未知への探求心、
人生への興味の歓喜がある。
君にも吾にも見えざる駆遣が心にある。
人から神から美・希望・よろこび・勇氣・力の
靈感を受ける限り君は若い。

靈感が絶え、精神が皮肉の雪におおわれ
悲嘆の氷にとざされるとき、
20 歳であろうと人は老いる。
頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、
80 歳であろうと人は青春にして已む。

サムエル・ウルマン、作山宗久訳『青春とは、心の若さである。』角川書店、1996 年

(注)連合国軍最高司令官マッカーサーの座右の銘であった詩をリーダーズ・ダイジェスト(1945 年 12 月)が取り上げたことから日本での紹介が始まったといわれる。サムエル・ウルマン(Samuel Ullman, 1840 年～1924 年)は、ドイツ生まれのユダヤ人で、幼くしてアメリカに渡り、若いときには慈善事業にも関与し、後半生はアラバマ州でのビジネスとともに学校も設立し、『青春』は 78 歳のときの作品といわれている。